

【漁況】

[マアジ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しました。平成11年には大きく減少し21万1千トンとなりましたが、その後やや増加し、平成16年は25万1千トンでした。

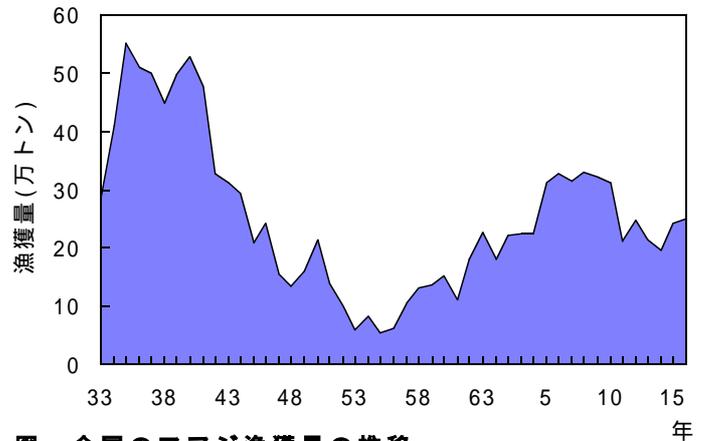


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 平成17年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、阿久根沖～串木野沖、甌周辺に漁場が形成されました。

薩南海域では、内之浦沖、佐多沖、馬毛島沖に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、豆・小アジ(1歳魚・平成16年生まれ)主体に499トンの水揚げで、前年の80%及び平年の44%でした。

3. 平成17年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、アジ仔・豆アジ(0歳魚・平成17年生まれ)及び小・中アジ(1歳魚・平成16年生まれ)となるでしょう。

来遊量は、前年・平年を下回るでしょう。

(根拠)

近年の漁獲パターンや現在の漁況経過から、アジ仔・豆アジ(0歳魚・平成17年生まれ)及び小アジ(1歳魚・平成16年生まれ)となると考えられる。

アジ仔・豆アジ(0歳魚)は、前期の漁況経過から、前年・平年を下回ると考えられます。

小アジ(1歳魚)は、前期までの漁況経過から来遊水準は平年並みと考えられます。

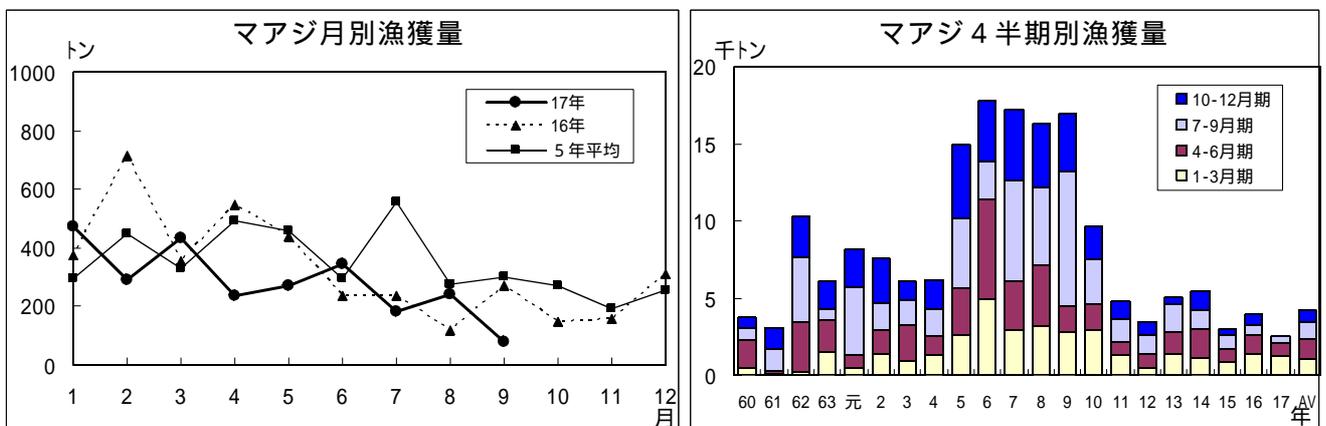


図 マアジまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成12～16年)の平均値、平成17年9月21日までの水揚げ量を使用。

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンを超えてマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんが、昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。平成9年には84万9千トンまで増加しましたが、平成14年は27万9千トンに減少した後、やや増加し平成16年は33万5千トンでした。

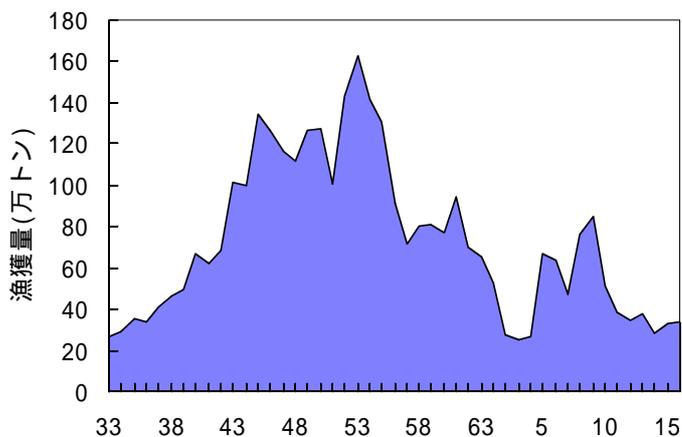


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

2. 平成17年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、長島～阿久根沖、甕周辺が主漁場となった。

薩南海域では、馬毛島沖・佐多沖・竹島沖が主漁場となった。

4港計では、7月はゴマサバ小・豆（1歳魚：平成16年生まれ）、8～9月はゴマサバ小・豆（0歳魚：平成17年生まれ及び1歳魚：平成16年生まれ）主体に8,354トンの水揚げで、前年の464%及び平年の423%でした。

3. 平成17年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、ゴマサバ豆・小・中（0歳魚・1歳魚）主体となるでしょう。

来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

（根拠）

現在の漁況や近年の漁獲パターンから、ゴマサバ0・1歳魚が漁獲の主体となる考えられる。

ゴマサバ1歳魚は、本県海域への来遊量が高水準である。近年の漁獲パターンから、今後も好調な漁況は継続すると考えられる。

ゴマサバ0歳魚は、春季の定置網入網やその後の沿岸漁業への混獲が非常に多く、また8～9月のまき網の漁況経過におきても来遊量は高水準である。近年の漁獲パターンから、今後も好調な漁況は継続すると考えられる。

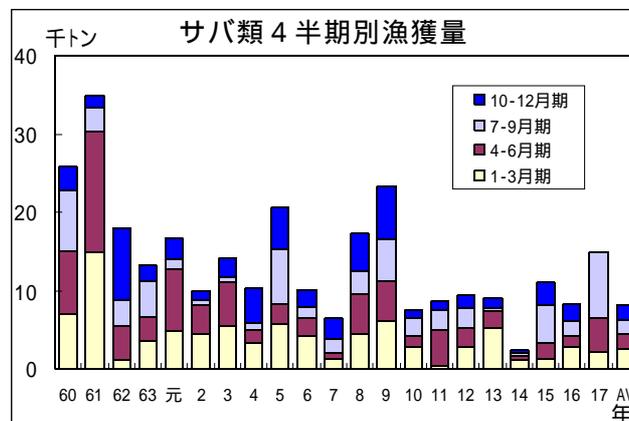
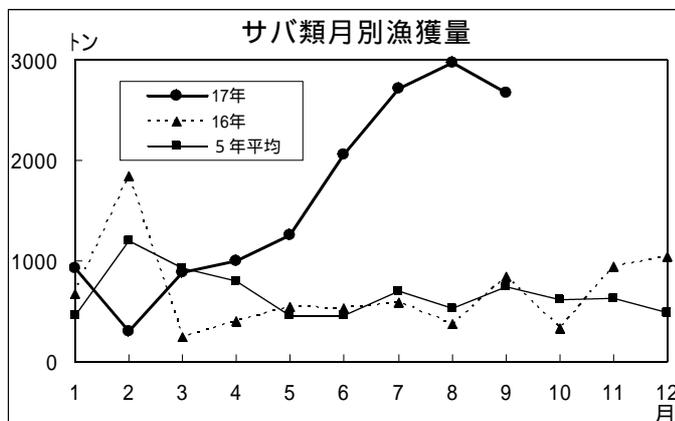


図 サバ類まき網漁獲量変化（4港計）

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トン、平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年は35万1千トンとやや増加したものの、その後減少し平成16年は5万1千トンでした。

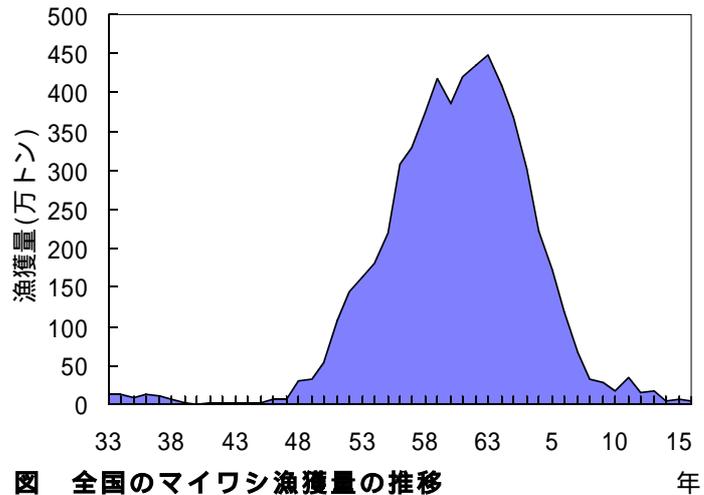


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

2. 平成17年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域の棒受網で1.8トン（平年比4%）と散発的な水揚げに留まりました。7月以降、10cm程度の小羽銘柄が北薩海域沿岸部で混じり程度に水揚げされました。

3. 平成17年10～12月期の見とおし

まとまった来遊は期待できないでしょう。

（根拠）

主漁期でないこと、またマイワシ資源は全国的に低水準にあり、資源回復の兆候がないことから今期の漁獲は見込めないと思われます。

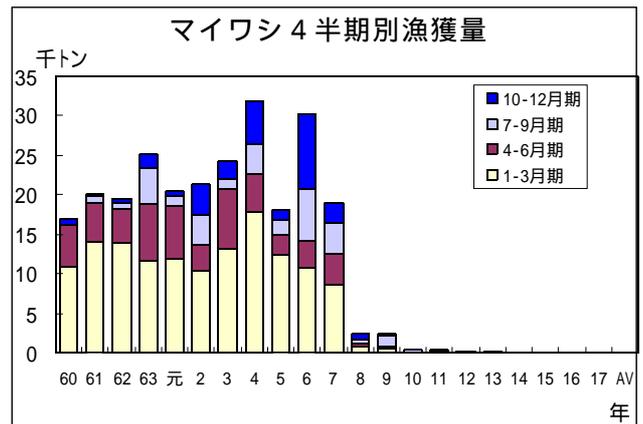
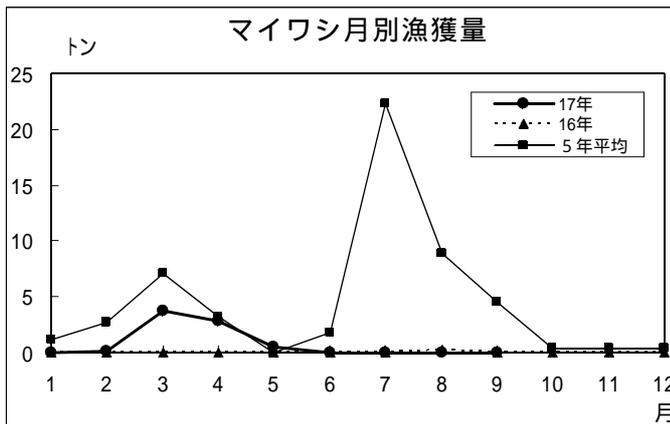


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年9月21日までの水揚量を使用。

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが、その後、増減を繰り返しながら、増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。近年では再び減少傾向に転じ、平成9年は5万5千トン、平成16年は3万2千トン

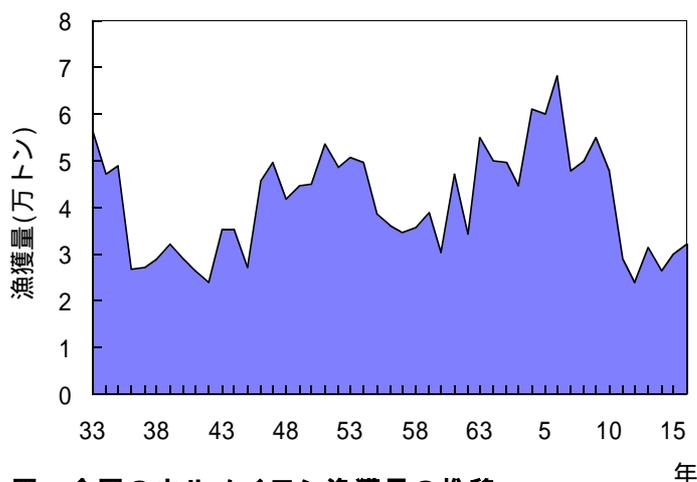


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 平成17年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

鹿児島県4港のまき網で96.5トン（前年比40％，平年比14％），北薩海域の棒受網で327.4トン（前年比75％，平年比62％）と前年・平年を下回りました。

主漁場の一つである北薩海域では、当歳魚の水揚げが低調に推移しました。

3. 平成17年10～12月期の見とおし

中～大羽銘柄(0～1歳魚)が漁獲の主体で、来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根 拠）

当歳魚の水揚げが低調に推移しており、来遊水準は低くなるものと考えられますが、日向灘等の近隣海域からの来遊次第で、漁況が好転する可能性は高いと思われます。

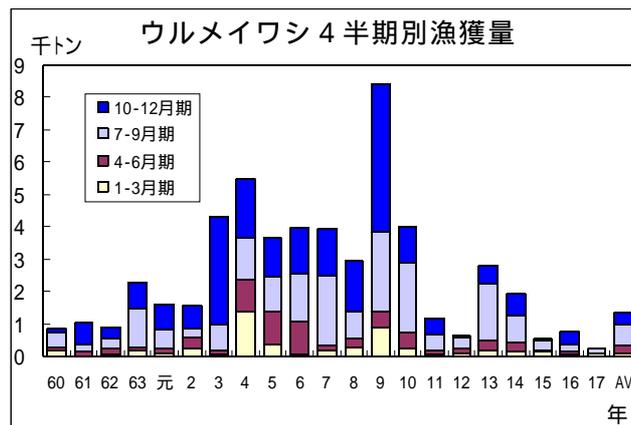
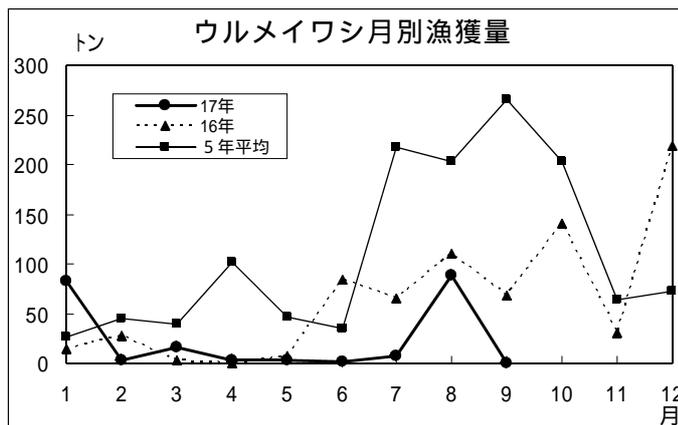


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年9月21日までの水揚量を使用。

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン、平成11年は48万トンとなりました。平成13年は、30万トンと一時的に減少しましたが、平成14年は再び増加し44万トン、平成16年は過去最高の49万8千トンでした。

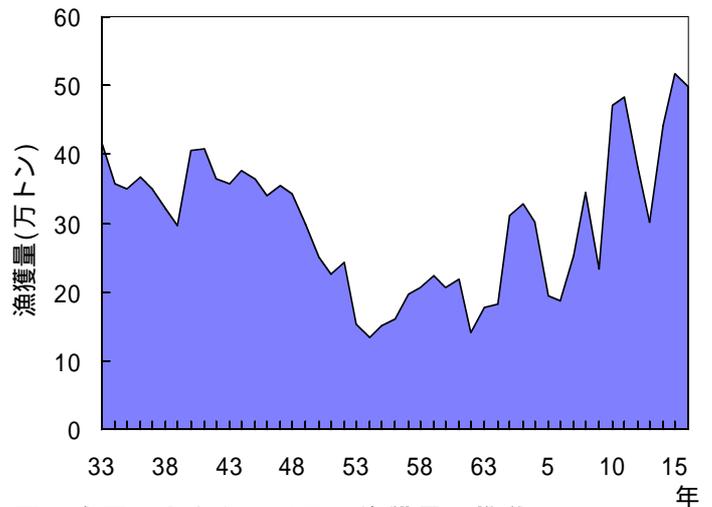


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 平成17年7～9月期の漁況の経過

【 4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）のまき網及び棒受網】

鹿児島県4港のまき網で18.3トン（前年比17%，平年比9%），北薩海域の棒受網で91.9トン（前年比72%，平年比70%）の水揚げで、いずれも前年，平年を下回りました。北薩海域では1～4月まで大羽銘柄（1歳魚 平成16年生まれ）を主体に好調な水揚げが続いたものの、0歳魚を主体に漁獲する当期の水揚げは低調に推移しました。

3. 平成17年10～12月期の見とおし

中～大羽銘柄(0歳魚・1歳魚)が漁獲の主体で、来遊量は前年，平年並みか上回るでしょう。（根 拠）

本年3～5月かけて実施した卵稚仔魚の分布調査から分布量は比較的高い水準にあったこと、また周辺海域のバッチ網漁業の漁模様から、来遊水準は比較的高いと考えられます。

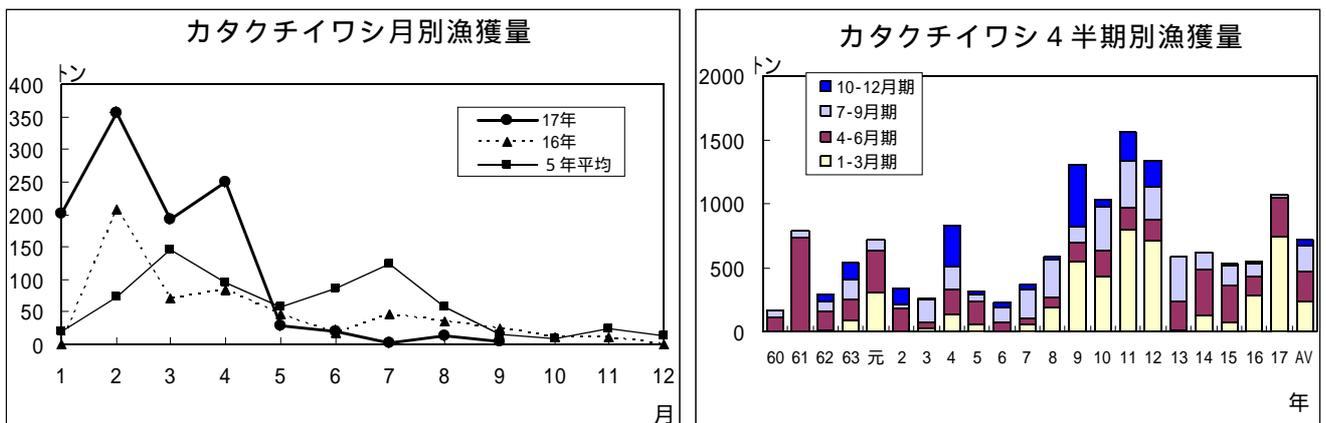


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年9月21日までの水揚量を使用。

[その他の魚種]

ムロアジ類 (4 港計)

1. 経年変化及び平成17年7～9月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに減少傾向を示し、平成12年は、昭和58年以降最低の1,819トンとなりました。平成13年以降はやや増加し、平成14年には4,418トンとなりましたが、その後はやや減少し平成16年は2,529トンとなりました。

平成17年7～9月は、主に薩南海域で漁獲があり、期全体では20トンの水揚げで、前年の6%及び平年の5%でした。

2. 平成17年10～12月期の見とおし

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

オアカムロ (4 港計)

1. 経年変化及び平成17年7～9月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに減少し、平成6年には1,823トンとなりましたが、その後は増加傾向となり、平成10年は3,413トンでした。その後、減少傾向となり、平成16年は2,204トンとなりました。

平成17年7～9月は、主に薩南海域で漁獲があり、期全体では54トンの水揚げで前年の21%及び平年の11%でした。

2. 平成17年10～12月期の見とおし

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

マルアジ (アオアジ) (4 港計)

1. 経年変化及び平成17年7～9月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、平成2年以降低調に推移しましたが、平成7年には1,430トンに増加しましたが、再び減少し平成11年は639トンでした。平成12年以降は増加傾向を示し、平成15年は3,150トンとなりました。その後減少し、平成16年は282トンでした。

主に西薩海域で漁獲があり、期全体では52トンの水揚げで、前年の112%及び平年の23%でした。

2. 平成17年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、マルアジ小・中・大(1歳以上)及びマルアジ豆(0歳魚・平成17年生まれ)となるでしょう。

来遊量は低調であった前年を上回り、平年を下回るでしょう。

(根 拠)

前期までの漁況経過からマルアジ小(1歳魚)及びマルアジ中(2歳魚)の来遊量が低水準であります。

マルアジ豆(0歳魚)は秋期に来遊がみられるが、現在のところ、来遊量は低調である。

総合的にみて低調であった前年を上回り、平年を下回ると考えられる。

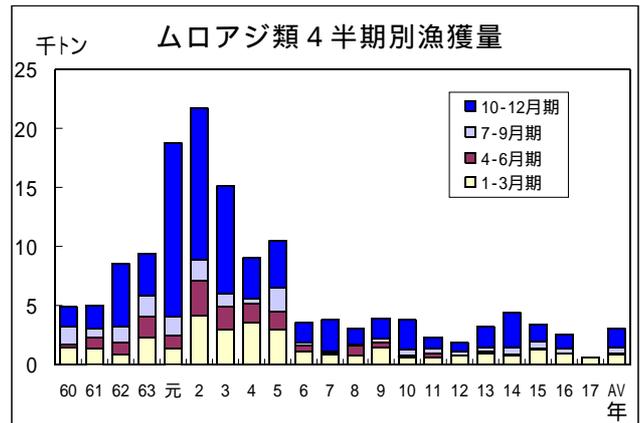
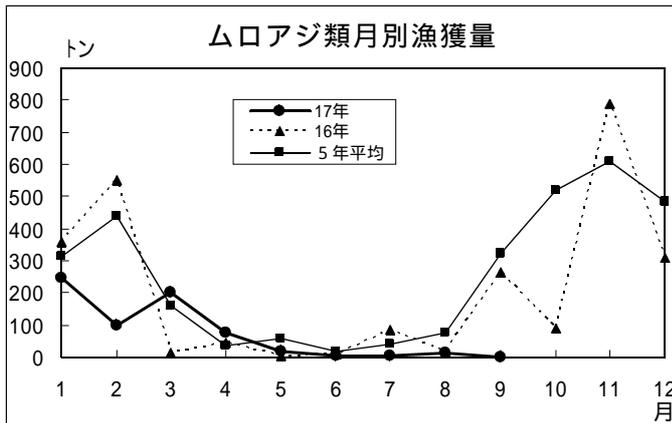


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

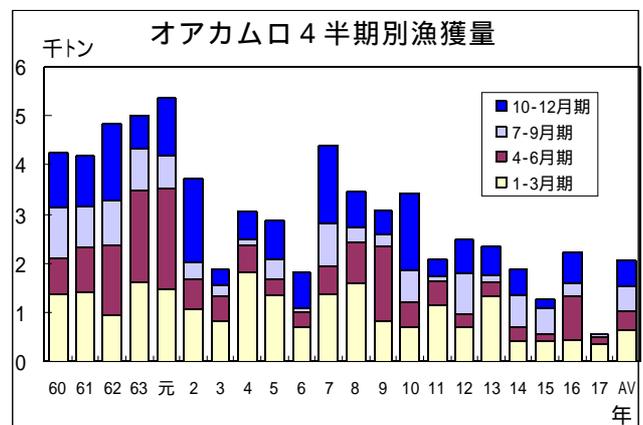
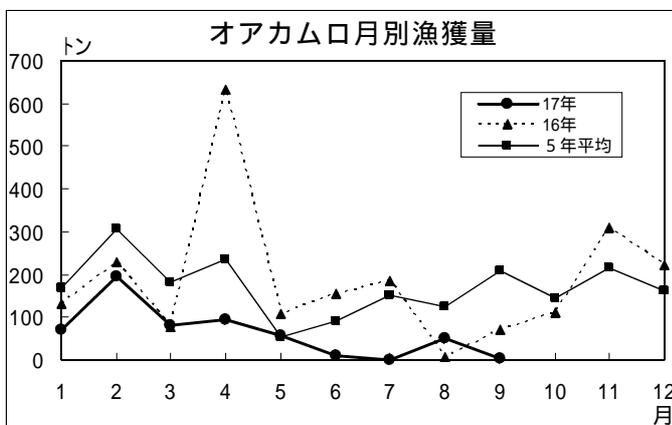


図 オアカム口まき網漁獲量変化(4港計)

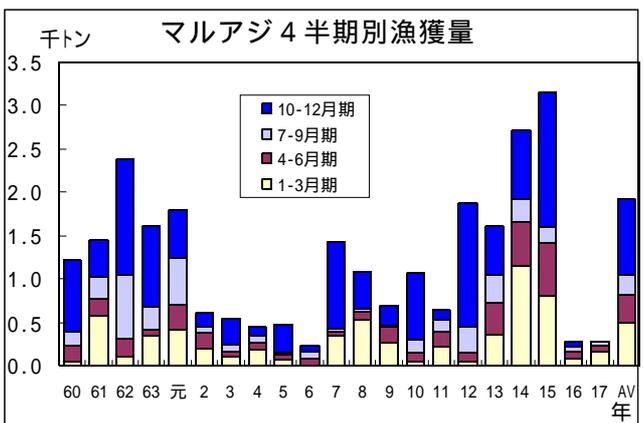
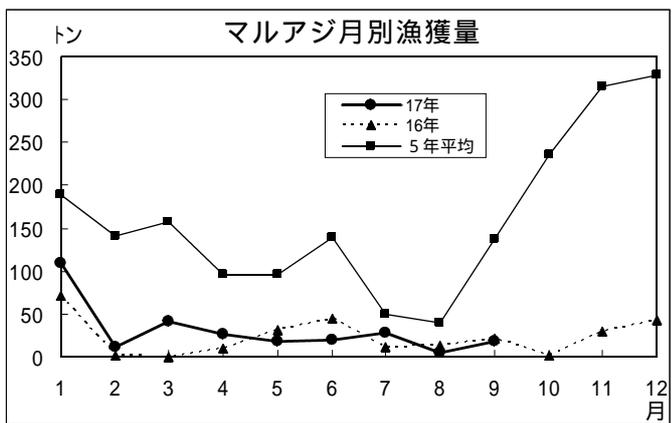


図 マルアジ(アオアジ)まき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成12~16年)の平均値,平成17年9月21日までの水揚量を使用。

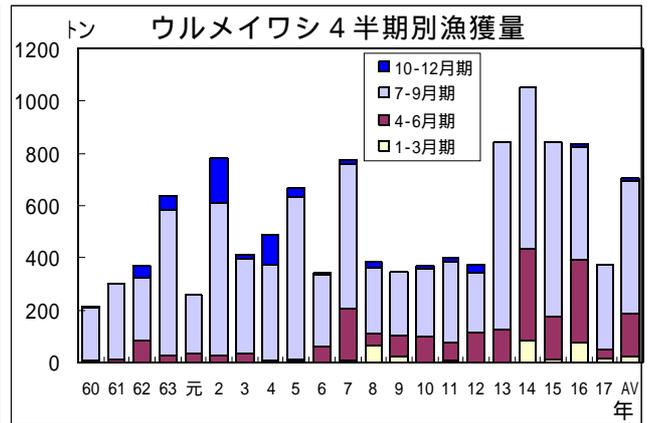
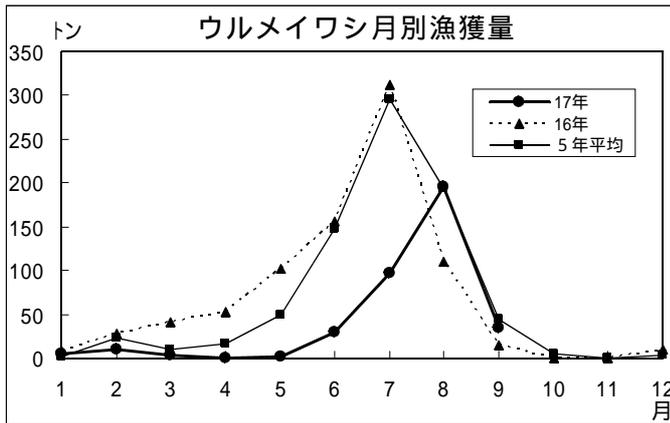


図 ウルメイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

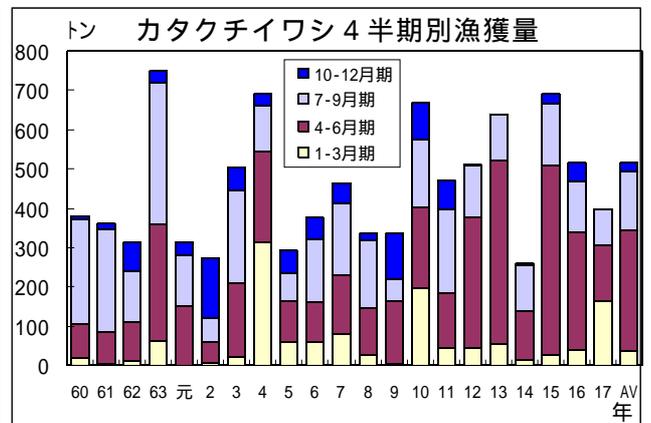
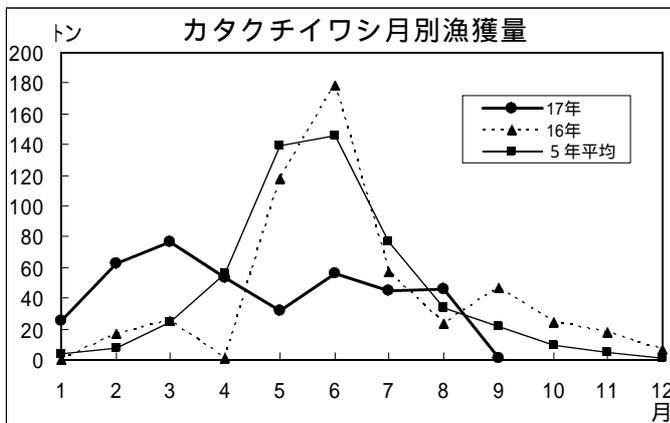


図 カタクチイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

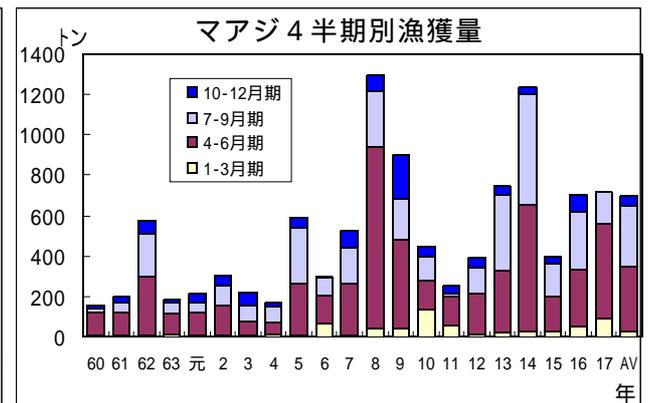
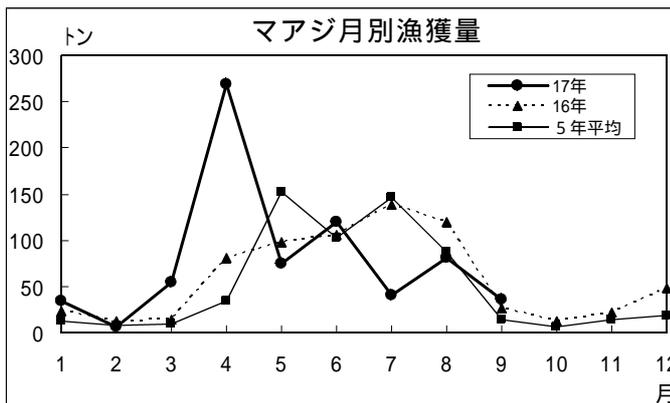


図 マアジ定置網漁獲量変化(内之浦港)

平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年9月21日までの水揚量を使用。